

第30回中山義秀文学賞作品決定！



公開選考会（令和6年10月13日）
新白信ビルイベントホールでの中山義秀顕彰会会長（白河市長）あいさつ

前号でお知らせしました候補三作品『風と雅の帝』荒山徹氏・『厳島』武内涼氏・『きらん風月』永井紗耶子氏を、最終選考委員伊東潤氏、上田秀人氏、澤田瞳子氏、細谷正充氏の四名により、令和6年10月13日に公開形式で選考会を開催した結果、『風と雅の帝』荒山徹著（PHP研究所）が第30回中山義秀文学賞に決定しました。



あらやまとおる
荒山 徹氏



最終選考委員
（右から伊東潤委員、上田秀人委員、澤田瞳子委員、細谷正充委員）

文学館だより

中山義秀記念文学館
令和7年2月
(2025年)

◇作品あらすじ

皇位継承が持明院統と大覚寺統で交互に行なわれていた鎌倉時代後期、量仁（光厳天皇）は持明院統の期待を背負って即位した。しかし、幕府が倒される際、六波羅探題軍とともに京都から逃れるも追い詰められ、目の前で六波羅探題ら四百名以上の武士が自刃。捕えられた光厳は、前帝・後醍醐によって即位そのものを否定されてしまう。その後、後醍醐と敵対した足利尊氏に擁立されることで、一度は“治天の君”の座につくも、尊氏の裏切りにより、南朝の囚われの身に――。彼を慕っていた鎌倉武士の死、宿敵・後醍醐との泥沼の闘い、吉野での幽閉の日々……南北朝の動乱の中、「天皇とは何か」を真摯に考え続け、現在の“象徴天皇”にも繋がる生き方を貫いた、“忘れられた天皇”を描く、著者渾身の歴史長編小説。

◇著者プロフィール

1961年、富山県生まれ。新聞社、出版社勤務を経て『高麗秘帖』でデビュー。『魔岩伝説』『十兵衛両断』『柳生薔薇剣』で吉川英治文学新人賞候補に。『柳生大戦争』で舟橋聖一文学賞を受賞。『白村江』が歴史時代作家クラブ賞作品賞を受賞、同作が「週刊朝日歴史・時代小説ベスト10」で一位となる。ほかの著書に「神を統べる者」（全三巻）、『風と雅の帝』などがある。

中山義秀文学賞第30回記念事業を開催しました。

文学賞が30回の節目となることを記念し、11月10日（日）午後「中山義秀文学賞第30回記念事業」を開催しました。

記念事業は第一部「第30回中山義秀文学賞贈呈式・文学賞受賞者記念公園」、第二部「中山義秀文学賞第30回記念式典・パネルディスカッション」、第三部「歴代受賞者との交流会」の三部構成で開催しました。



パネルディスカッション



歴代受賞者との交流会



選考委員を3年以上務められた方への感謝状贈呈



荒山徹氏へ花束贈呈



荒山徹氏による記念講演

中山義秀記念文学館 企画展

開催終了

【昭和20年代・30年代子どもの秘密お宝展】
5月19日～6月30日 観覧者489人



【甲冑展】
9月15日～10月27日 観覧者260人



開催中
【リバイバル展】

令和7年2月9日～3月23日



【藤田記念博物館名品選文豪夏目漱石と結城素明】
8月2日～9月1日 観覧者77人



【半沢政人 奥会津の風景展】
11月17日～12月22日 観覧者113人



中山義秀文学ツアー



令和6年12月1日に実施しました。今年度は、「前橋文学館・萩原朔太郎記念館」を訪ねました。(参加者30名)

第14回中山義秀記念 作文コンクール表彰式



令和7年2月18日にりぶらん会議室で「第14回中山義秀記念作文コンクール」の最優秀賞及び優秀賞受賞者への表彰式が開催されました。なお、佳作を含め、受賞者は市ホームページで紹介しています。

— 中山義秀記念文学館利用のご案内 —

《白河市大信町屋字沢田 25 ☎;0248-46-3614、FAX;0248-46-3702、E-mail; n-bungakukan@city.shirakawa.fukushima.jp》

■開館時間 午前10時～午後6時(土日祝日は午後5時まで)

■休館日 月曜日、祝日の翌日(月曜日が祝日の場合は翌日、祝日が金曜日の場合は前日)、年末年始(12月29日～1月3日)

■入館料 大人220円、小人110円